

このままでいいのかな。

波の高さを知ってからは余計に、何よりも高いところへ避難しなければという思いが強くなった。訓練でもそうだ。そういう練習を、実際にやっていかないとだめなんだ。



吉崎さんが作成した津波浸水想定図と海拔イメージ図



町歩き

津波浸水想定によりどの程度まで浸水するのか目視で確認。



津波避難訓練



高台にある避難場所へ避難する様子

安否確認訓練



白いタオルなどを掲げることで世帯の無事を知らせます。

安否確認完了!



PICK UP 東町



「津波避難訓練で使うMAPを作成したので、次回からはこのMAPで訓練したい」東町の役員から申し出があったのが昨年の秋。東町といえば近年、安否確認訓練での参加世帯数が飛躍的に伸びている自主防災活動が活発な地域だ。

こんなところまで津波が来るのか

「県から津波の浸水想定が発表された後、危機管理課の方々と一緒に町歩きを行ったんです。津波がどのくらいの高さまでくるのかを目の当たりにし、特に東町は大磯町でも低いところが多いので、津波に対してより気にするようになりました」と東町自主防災委員の石倉さん。町歩きは、それまでの訓練を見直すきっかけになったと言う。

「これまで、訓練の避難場所は東町福祉館でした。ここは東町でも少し高台に位置している。訓練の際は、『ここは仮の避難場所です。本当に津波が来たら高台に逃げてください』と地区で決めていました。津波の浸水深を知ってからは、小嶋（副区長）とも話し合っ、訓練でも高いところに逃げよう、そういう練習をしようかと決めたんです。」

高い場所を目指す避難経路

「町歩きでポイントごとに数値のメモを取り、避難経路を示しました」と、同じく町歩きに参加された吉崎さん。想定される波の高さからできるだけ安全な避難経路を考え、MAPを作成したそう。地図には方向を

示す矢印が記されている。「矢印が実際の避難経路上にないのは、あくまでも高台への方向を示しているためです。実際に災害が起きた時に、通れなくなる道もあるかもしれない。その時は、迂回して高台を目指すように考えました。」

避難にかかる時間を知ること

MAPを使用した訓練では、これまでの避難場所よりも長い距離を歩かなければならなかったが、住民からの反対はなかったという。

「津波でなくても、台風や大雨で河川の増水もありますし、皆さん日頃から防災に対する関心が高いのかもしれない」と石倉さん。訓練では避難にかかった時間を『いつとき避難場所』『最終避難場所』までの2段階で計り、各スタート地点からの所要時間の把握に努めた。「津波が到達する前に逃げなきゃいけない。時間との戦いなんです」と吉崎さん。

安否確認訓練の参加世帯数の飛躍的増加

今年で4年目となる総合防災訓練の安否確認訓練。1年目の東町の参加率は決して良いものではなかった。当時、自主防災

自衛団の役員になり、対応に悩んだと石倉さん。「我々も自信がなく、班長さんにもどうお話ししたらいいのか分からなかった。最初の年は手順の確認を行い、2年目で少し実施する班を増やした。結果的には住民の皆さんが協力的で、元々意識が高かったこともあり、3年目で東町全域の安否確認を行うことができました。」

一歩先を見据えて

「さらに高台へ逃げるための経路も今模索しているところで」と吉崎さん。「訓練を重ね、MAPを改良していきたいですね。」

こういった訓練は地域コミュニティの形成にも繋がると石倉さん。「地域の皆さんの結びつきが強くなるよう、少しでもそのタイミングやきっかけ作りができればと思っています」と地域への想いを語った。

危機管理課 ☎内線244



東町の自主防災に取り組む、吉崎さん(左)、石倉さん(右)